

平成31年度 大田区立大森第一小学校

学力向上のための授業改善プラン

大田区教育委員会では、学習内容の定着状況を把握し、授業改善を図ることで、児童・生徒に「確かな学力」を身に付けさせるため、「大田区学習効果測定」を実施しています。小学校では、4・5・6年生について、国語・社会・算数・理科の調査を行いました。本校ではこの調査の結果や、普段の児童の様子をもとに、授業改善プランを作成しました。

□全体計画

調査の結果と結果からの改善策

□4年

□5年

□6年

児童の様子からの改善策

□1年

□2年

□3年

□体育

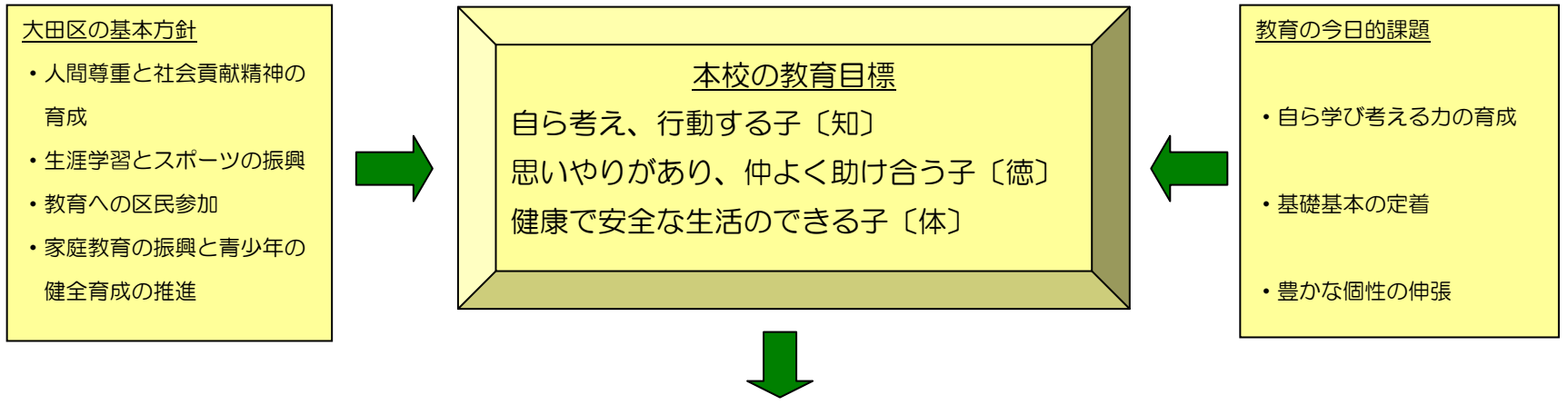
□音楽

□図工

□家庭



全体計画



学力向上に関わる本校の経営方針

基本方針

- 教育目標の具現化が子どもの姿を通してみること、語ることができる
 1. 限りない可能性を秘めた子どものための学校づくりに努める。
 2. 全教職員の力を結集し、信頼に基づいた学校づくりに努める。
 3. 開かれた学級・学年・学校づくりに努める。

- ① 学習意欲を高める授業の創造
- ② できた喜び（例えば達成感・成就感）などの「自己肯定感」を感じられる授業の創造
- ③ 小さな事柄でも「できた」「わかった」を確かめること
- ④ 友達と交流し、かかわり合い、発表する中で、学習することの喜びを感じさせること
- ⑤ 主体的、体験的に学ぶ機会を増やし、学習の喜びを体感させること
- ⑥ 算数科習熟度別指導・ステップ学習・補習教室の推進、家庭学習の習慣化
- ⑦ 学習形態や学習集団の工夫で学習効果を高め、オープンスペースの有効活用を図ること
- ⑧ 「朝学習の時間」（ぐんぐんタイム）による基礎・基本の徹底（発達段階に応じて、系統的・計画的に）
- ⑨ 本校の授業改善推進プランの実施・評価・改善
- ⑩ 学年協働体制による学年全体と個に応じた指導の工夫・充実、指導スタンダードの実践
- ⑪ 授業中の評価活動の工夫、評価規準、通知表等の改善

学力向上に向けての取り組み

- 各教科等の基礎的・基本的内容を重視するとともに、自己肯定感を高め、自ら学び、自分の考えを発表できるような学習指導を進める。
- 話し合いや教え合う等の活動を通して友達と交流し、自分の考えを深めたり広げたりするとともに、友達と学ぶことの楽しさを実感させる。
- 3～6年生の算数において、3学級4展開（5年生は2学級3展開）による習熟度別少人数指導を取り入れ、個に応じた指導をする。
- 朝のぐんぐんタイムや放課後の補習教室を活用し、個別の課題に対応した指導を行う。
- 読書の啓発や掲示の工夫を通して、言語環境を整える指導を行う。
- 指導スタンダードを共通理解することを通して、基本的な生活習慣・学習習慣についての指導を統一し、全教職員で一貫した指導を行う。

大田区学習効果測定 調査結果と結果からの改善策

4年生

昨年度授業改善プランについての成果と課題

国語→読書タイムや国語の時間を通して、文章を読む習慣を身に付けさせることができました。今後は、考えを書いて表現する力の伸長を図ります。

社会→自らの生活経験や調査活動を通して、地域を題材とした学習に興味をもって取り組むことができました。今後は、必要な情報を収集する力の伸長を図ります。

算数→ぐんぐんタイムや少人数での算数授業を通して、一人一人が分かる授業を目指しました。個別の支援体制の更なる充実を図ります。

理科→事象を比較しながら観察・実験を行うことができました。今後は、知識・技能の定着や、観察・実験の目的理解をより確かなものにするのが課題です。

I 調査結果の概要

- △：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点
- ≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点
- ▽：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国 語					社 会				算 数				理 科			
全体	≡					≡				≡				▽			
観点別	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	▽	≡	▽
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	知識・理解	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	知識・理解	関心・意欲・態度	科学的思考	観察・実験の技能・表現	知識・理解

1 教科全体

国語、社会、算数は、目標値とほぼ同程度の結果でした。算数は昨年度よりやや下回りましたが、国語は昨年度より上回りました。理科は、昨年度と同様に、目標値を下回りました。

2 観点別

各教科の設問を、教科ごとに4~5つの観点に分けて集計した結果です。国語、社会、算数は、どの観点も概ね同程度の結果でした。理科の【科学的思考】と【知識・理解】は、昨年度から引き続き、目標値を下回りました。

II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- ・「ローマ字」、「作文」、「漢字」の内容に関するつまずきが多く見られました。
- ・書く活動前に、考えを広げるために、友達や先生と話し合う活動を意図的に設定します。
- ・ローマ字や漢字などの知識の定着を図るために、反復学習の機会を設けます。
- ・考えを整理・分析したり、表現したりする方法を学ぶために、言語活動の充実を図ります。

〔社会〕

- ・「地図記号や八方位」、「店で働く人の工夫」の内容に関するつまずきが見られました。
- ・関心・意欲・態度の更なる向上のために、社会科見学等の体験的な調査活動の機会を設けたり、生活と関連付けて考えさせたりします。
- ・教科書やインターネットなどを用いて、必要な情報を収集する力の伸長を図ります。

〔算数〕

- ・「長さ」、「重さ」、「三角形」の内容に関するつまずきが多く見られました。
- ・習熟度別学習を推進し、個に応じた課題に取り組ませます。大田区ステップ学習のプリントを活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- ・表現力を高めるために、文章題の問題場面を数直線や図に表したり、立式したりする活動を繰り返します。

〔理科〕

- ・「光」、「太陽」、「昆虫」の内容に関するつまずきが多く見られました。
- ・観察や実験の際に、明確な視点による結果の記録・分析ができるように、問題の把握や予想の検討を確実に行うようにします。
- ・より確かな知識・技能の定着のために、分かったことを図や言葉で書いて表現させます。



5年生

昨年度授業改善プランについての成果と課題

国語→「書く」「読む」の2観点で目標値を上回りました。話す・聞く能力、言語力を身に付けることが課題としてあげられます。社会→全体的に目標値と同等の力がついてきています。児童の興味・関心を喚起する資料や動画を導入に用いて、学習を進めます。算数→「数学的な考え方」において目標を上回りました。知識・理解には、ばらつきが見られるため、習熟度別指導を継続することで、基礎・基本のさらなる定着を図ります。理科→目標値を大きく下回っています。観察・実験の技能や表現の力を高めるために、「問題→予想→実験・観察→結果→考察」という過程を通して学習を進めます。実体験をさらに積み重ねて、豊かな知識や深い理解へとつなげていきます。

I 調査結果の概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国 語					社 会				算 数				理 科			
全体	≡					≡				≡				▼			
観点別	≡	≡	△	△	≡	≡	≡	≡	≡	≡	△	≡	≡	▼	≡	▼	▼
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・資料活用 の 技能・表現	知識・理解	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	知識・理解	関心・意欲・態度	科学的思考	観察・実験の技能・表現	知識・理解

1 教科全体

昨年度（4年）との経年比較では、国語・社会で成長が見られます。算数は、観点によって課題がありますが、目標値とほぼ同等です。理科は、多くの観点で目標値を下回り、重点的に学力向上のための手立てを講じる必要があります。

2 観点別

各教科の設問を、教科ごとに4~5つの観点に分けて集計した結果です。

理科は「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的思考」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」の4観点で目標値を下回りました。



II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- ・グループでの話し合いや、意見や感想の交流場面を意図的、計画的に設定し、自分の思いや考えを表現し合う場を設定します。
- ・区の教材を活用し、段落や要点を考えながら、分かりやすい文章を書く力を身に付けます。
- ・学習した新出漢字や熟語などを、日常のノートや作文で進んで活用することを通して、確かな知識として定着するようにしていきます。

〔社会〕

- ・デジタル教科書などの画像や動画を導入で活用することで、関心・意欲を高めるようにします。
- ・教科書や地図帳、資料集を意図的・計画的に活用し、グラフや図表、写真資料から読み取れることを分析したり、自分なりの表現でまとめたりできるようにします。

〔算数〕

- ・教材や問題を工夫し、児童が興味・関心をもって取り組めるようにします。
- ・習熟度別指導や補助教材を活用し、基礎・基本となる学力の定着をさせます。
- ・線分図や数直線などを使い、わかっている条件や求める答えについて整理することや図形などを書く際、かきかたを一つ一つ確認しながら、正しく表現できるようにします。

〔理科〕

- ・単元全体、1時間ごとの学習課題を明確にすることで、児童が実験・観察の「必要性」「有用性」を感じられるようにしていきます。
- ・少人数グループや個人での活動を多く取り入れ、個々の児童ができるだけ実感をもって学習に参加できるようにします。
- ・単元の終末で学習内容を整理し振り返る時間を設定し、学んだことを確実に知識として身に付けられるように指導していきます。

昨年度授業改善プランについての成果と課題

- 国語→「話すこと・聞くこと」は、学級会などの日頃の話し合い活動の成果もあり目標値上回りました。しかし、「読むこと」で目標値を下回りました。読書を推進し、文章に触れる機会を増やしていきます。また、説明文の内容を読み取る力の向上が、今後の課題だと考えています。
- 社会→目標値を下回る観点が多かったです。導入でデジタル教科書の画像や動画を活用するなど、児童の興味・関心を高めてから学習内容に取り組むことを継続します。資料から事実をていねいに読み取ることや、読み取った事実をもとに考える学習活動を行います。
- 算数→数学的な思考は、改善が見られました。授業の初めに前時の学習の振り返りをするなど、既習事項の確認を授業に取り入れて更なる定着を図ります。今後も家庭学習の充実、習熟度別学習で児童一人一人に対応した指導を継続し、定着度の向上を目指します。
- 理科→すべての観点で、目標値を下回っています。観察・実験の技能や表現力を高めるために、個人で仮説を立ててからグループで話し合わせるなど、思考力を高められるよう学習を進めます。科学的な事象を日常生活と関連付けさせ、基礎的な知識・理解の定着を図ります。

I 調査結果の概要

- △：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点
- ≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点
- ▽：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国 語					社 会				算 数				理 科				
全体	△					▽				≡				▽				
観点別	△	△	△	▽	△	▽	▽	▽	▽	≡	≡	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	知識・理解	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	知識・理解	関心・意欲・態度	科学的思考	観察・実験の技能・表現	知識・理解	

1 教科全体

教科全体としては、目標値に至らない教科がありました。国語は、目標値を若干上回り、昨年度よりも実力が身に付いています。

2 観点別

各教科の設問を、教科ごとに4~5つの観点に分けて集計した結果です。

国語では「関心・意欲・態度」「話す・聞く力」「書く力」「言語についての知識・理解・技能」の4観点すべてで目標値を上回りました。算数では「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」では、目標値に達したものの、「数量や図形についての表現・処理」「知識・理解」で目標値を下回りました。併せて社会・理科の4つの観点が今後の課題となります。



II 教科ごとの授業改善プラン

〔国語〕

- ・説明文の文章全体の構成を捉えながら読めるように指導法を工夫していきます。筆者の考えや主張を正しく捉えながら、それに対する自分の考えをまとめる力を身に付けさせていきます。
- ・文の構成を理解し、目的や意図に応じて、自分の思いや考えが伝わるように表現できる力の伸長を目指していきます。

〔社会〕

- ・国土や産業（農業・工業）など、前年度の学習で定着していない内容については、2学期以降の授業の中で関連付ける時間を設けるなどして学習を進めます。
- ・教科書や地図帳、資料集を意図的・計画的に活用し、グラフや図表、写真資料から読み取れることを表現できるようにします。

〔算数〕

- ・大田区ステップ学習、東京ベーシックドリル、補習教室、家庭学習、学習カルテを活用し学習内容の確実な定着を目指します。
- ・一人一人に応じた習熟度別編成を行うとともに、児童同士が対話する時間を確保し、児童の思考力を高めます。
- ・文章題では、数量の関係を数直線や図に表すなど、思考の過程を明確にして問題に取り組ませる指導を行います。

〔理科〕

- ・「問題→予想・仮説→実験・観察→結果→考察→新たな問題」という学習過程を通して、自分なりに考えをもち、確かめ、自力解決する力の育成を目指します。
- ・単元の終末で学習内容を整理し振り返る時間を設定し、学んだことを確実に知識として身に付けられるように指導していきます。
- ・仮説、考察の説明活動を意図的に取り入れ、多様な方法で考えを表現する力を定着させていきます。



児童の様子からの改善策

1年生

入学してから一学期の成果と課題

一斉指導のもと、話を聞いて行動につなげる力、自分で判断する力が身に付いてきています。平仮名の学習を一字ずつ音読と合わせて進め、丁寧に書いたり、はっきりと読んだりすることができる児童が増えました。したことを2～3分で話したり書いたりすることは、ほぼ全員ができるようになりましたが、苦手意識をもっている児童もあり、個別支援を続けています。10までの数の増減を具体物の操作なしで思考できる児童も増えましたが、操作ができていても数の処理に時間を要する児童もいます。成果につながる繰り返しの練習が必要です。

国語

学年の実態

物語を読むことを楽しみ、意欲的に授業へ参加しています。言葉のまとまりを捉え、声の大きさや速さに気を付けて音読できるようになってきました。平仮名を正しく読み書きできる児童がほとんどですが、拗音・促音などを含む単語や助詞「は・へ・を」を正しく表記することが難しい児童もいます。叙述から場面や登場人物の様子を正確に読むこと、順序を意識して文を書くことが今後の課題です。

改善策

仮名遣い、拗音・促音の課題については、朝のぐんぐんタイムや宿題で継続して指導を続け、正しく読み書きができるようにしていきます。物語文や説明文を読み、内容について話し合ったり、場面と場面のつながりを考えたりして、読むことを楽しみながら正確に読む力を身に付けていきます。



1年生は発表にも意欲的です。児童の発言や反応を生かした授業を展開しています。

算数

学年の実態

1～20までの数を正確に数え、繰り上がりのない足し算・繰り下がりのない引き算を正確に計算できる児童が多くなりました。算数ブロックを用いたり指を使って答えを確かめたりする児童もいます。違いを求める引き算の理解が十分できるよう指導を続けています。

改善策

具体物や半具体物、図絵など、発達の段階に即して教材教具を工夫し、体験的な活動を重視しながら学習をすすめることで、計算の意味を考えるようにします。計算ドリルやたしかめプリントなどの活用と宿題で繰り返し計算練習を行い、正確さ、速さを身に付けさせます。時間を意識して行動させることで、時計に親しみながら時刻を読むようにします。



体験活動を多く取り入れて、楽しみながら、理解を深めるように工夫しています。



生活

学年の実態

他学年と直接かかわることで、学校の一員になったことを実感できました。2年生による学校案内後、自分たちで再度学校探検へ行き、校内の様々な場所や働く人を調べました。友達と共に活動したりクイズを出し合ったりして新しい友達とのかかわりも増えました。6年生とのかかわりの中で上級生に対する感謝の気持ちをもつようになってきました。幼稚園・保育園との交流を実施し、自分の成長に気付くきっかけとなりました。アサガオなどの植物を育てる活動では、継続して世話したり観察したりすることを通して、植物への興味関心が高まり自然に親しもうとする意識が育ちました。ESD集会としてアサガオランドを開き、植物とのかかわりの成果を他学年に発信しました。

改善策

学級や学年、他学年の児童と活動することを通して、自分と友達、自分を支えてくれる人とかかわり方を体験的に学べるようにしていきます。自然との触れ合い、季節の行事を大切にすることで、豊かな心情を育てていきます。



アサガオの栽培を通して感じたことや考えたことをもとに、アサガオランドの開催を計画しました。色水遊び、クイズ、迷路等児童一人一人の発想を大切にしています。

2年生

昨年度改善プラン成果と課題

基礎・基本の継続的な取り組みにより、文章をはっきりと音読すること、字形の整った字を書くこと、繰り上がり・繰り下がりのある計算で10のまとまりを抽象的な操作で行い計算することができる子どもが多くいます。異学年での交流やアサガオの栽培など直接経験を通じて、学ぶことの楽しさを感じ、人との関わりや自然に関心が高まっています。

基礎・基本が十分でない児童や人と積極的に関わることや生き物に苦手意識をもっている児童もいるため、昨年度の取り組みを継続します。基礎・基本を活かして、自分の考えを表現したり、友達の意見を聞いて自分の考えを更新したりすることを通じて、思考力や表現力についても伸ばしていきます。

国語

学年の実態

音読は多くの児童が、はっきりと大きな声で読むことができます。登場人物の心情の変化に関しては、経験的に感じることはできていますが、それと叙述から読み取れることとのつながりについての理解は難しいです。自分の考えや気持ちを伝える意欲はありますが、文章の構成を考えて表現することはこれからです。字形の整った字が書ける児童が多くいますが、日常生活に習得した漢字を活かして書くことは十分ではありません。

改善策

物語の読解に関しては、物語の構成（始め・中・終わり）を意識して登場人物の心情の変化について根拠をもって考え、互いに交流し、深めていきます。説明文の読解にも、物語の構成を意識し、教材文の構成を自分の作文にも活かします。作文は下書きや推敲の時間をとり、文章に間違いや漢字で書ける部分がないか確認するようにします。



左は、説明文「たんぼぼのちえ」の巧みな構成を活かして、自分も好きな題材について、説明文を書いたものの交流をしています。右は、「ふきのとう」の音読発表です。表現・交流を通じて思考力・表現力を育てていきます。

算数

学年の実態

基本的なたし算・ひき算の計算処理は多くの児童が習得できています。数を位ごとのまとまりとして算数的にとらえることや、長さや時刻と時間などの計測については、難しく感じる児童が多くいます。日常の現象を算数としてとらえることは難しく感じる児童が多く、文章での状況が想像できない子どもがいます。

改善策

授業では、日常の現象を算数的に読み取ることを授業の導入や終末で意識的に行い、児童の生活と算数とをつなぎ、算数を学ぶ意味を感じさせていきます。計測に関して、経験が不足していることから、生活科など他教科・領域で算数の技能として用い、確実な習得を図っていきます。



左は、算数で長さ（cm）を習った後に、ミニトマトの草丈を測っているところです。30cmでは足りずに、2本を組み合わせています。右は、cmで測れないアゲハの卵です。mmを使う必然性をもたせるように図りました。

生活

学年の実態

人と関わることや自然に積極的に関わる児童も多くいる一方、苦手な子どももいます。アゲハやカブトムシの飼育や野菜の栽培、梅ジュースや麦茶づくりを通じて、自然体験をさせ、興味・関心を示す児童は増えてきています。1年生とは、学校探検やこどもまつりを通じて、交流しています。

改善策

自分たちの町探検や自然体験を1年生に伝えることや一緒に探検を行うことを通じて人との関わりを深める。三学期に生活科を中心としてこれまでの経験を振り返り、自分の成長を自覚し、学びに向かう力を涵養する。



左は、町探検の計画を学年で立てているところです。探検したことを、他学年に伝えようというアイデアも出ました。右はバルコニーで野菜を栽培しているところです。教室のすぐ近くで、成長の様子が気になったら、すぐに観察できます。

3年生

昨年度改善プラン成果と課題

算数では、九九の習得は高いものの、量の単位や時刻と時間に関わる単元に課題が残ります。国語では、漢字の習得は高いものの、語彙力や初めて読んだ文章を理解する力に課題があります。

今年度は、自ら学習に向かう姿勢を身に付けさせ、学習の基礎・基本となる力を伸ばしていきます。そのために、根拠をもった自分の考えをもち、友達と伝え合うコミュニケーション能力、課題解決能力を高めていきます。

国語

学年の実態

本文の内容にそって登場人物の気持ちを考え、グループで話し合い、読む工夫をしています。文の中心やまとまりを考えながら読むことで、作者が伝えたいことを考える習慣を身に付けさせています。作文や報告文での表現方法や、漢字を適切に使っているかについては、課題があります。

改善策

物語文、説明文の学習では、様々な言語活動を取り入れるなど、意欲的に読むことができるようにします。毎時間のめあてを明確にし、ペアやグループの話し合い活動を取り入れた学習を重ねています。また、自分の考えを適切に伝える力も育てていきます。漢字は、小テスト、ワークテストなどに向け、繰り返し練習し、『日常生活で活用する』を目標に、自主的に学習を重ねられるようにします。



集団での活動を様々な場面で取り入れています。交流場面では、一人ひとりが自分の考えをもち、司会者や記録者など役割を分担し活動しています。グループでの活動から、伝え合う力を高めています。

社会

学年の実態

自分たちが住む大田区を方位ごとに、土地や建物などから比較し、共通点や違いを調べる学習に取り組んでいます。視点をもたせて考えることで、学習への理解が深まるようにします。課題解決に向けて、考え表現する力や、地図や資料を正しく読む力や活用する力に差が見られるため、引き続き指導が必要です。

改善策

資料をもとに、児童の発言や気付きを生かした学習問題を作り、学習の見通しやキーワードを示すことで学びの視点をもたせます。体験活動と記録・資料の活用を取り入れ、「自分と社会のつながり」を考えた授業づくりをしています。



算数

学年の実態

既習の繰り下がり・繰り上がりの計算、量や長さの単位への理解に課題があります。文章題の問題では、問題の意味を読み取れなかったり、立式の根拠をもちずに計算したりするなど、数学的な思考力・表現力に課題のある児童がいます。

改善策

問題解決への見通しをもたせ一人一人が自分の考えをもって表現できる学習環境を充実させます。また、習熟度別学習の実態や結果を教員が把握し、机間指導やノート指導だけでなく、朝学習や補習教室なども活用して、改善に努めます。



様々な教科で、電子黒板を使用した授業を展開しています。算数では、図を動かしたり、ノートに書いた友達の考えを映し出して説明したりするなど、学習場面に応じて効果的に活用しています。

理科

学年の実態

植物や昆虫を育てる体験や視点のある観察、「かげと太陽」では、影のでき方や太陽の動きを調べる実験方法から結果を記録し、興味・関心を高めました。一方、結果から何が考えられるか、何が言えるのかといった考察する力に差があります。

改善策

植物や昆虫など観察や実験の視点を明確に示し、理解させます。また、ノート指導に加え、知識の定着を図るために、単元ごとに振り返りを行います。結果から導き出せることをキーワード化し、考察する力を伸ばしていきます。

体 育

昨年度改善プラン成果と課題

全 体

体力づくりに必要な機会を多く設定し、朝の時間や休み時間など、学校生活全体を通して体力向上につながる遊びや運動に親しむことができるようになりました。

低学年

ルールのある遊びを取り入れることで、きまりを守り、友達と楽しく運動することができるようになりました。




中学年

自分なりに運動の工夫を考え、技能や思考面を自己・他者評価することで、全体の運動の技能が向上しました。

高学年

自己の課題を理解することで、運動に対する意識や取り組む姿勢が向上しました。




	児 童 の 様 子	改 善 の ポ イ ン ト
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して取り組むことができます。 運動に対して進んで取り組む児童が多数います。 運動のイメージがなかなかもてず、体の動かし方が分からない児童がいます。 運動の仕方やルールが分からず、協力して運動ができない児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動を授業の中で計画的に取り入れ、基本的な体の動きを養います。 目指す動きを細分化し、段階を踏んで動きを体得できるようにしていきます。 ゲームを取り入れ、ルール守ること、協力するよさを実感できるようにします。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 友達の動きのよさに気づき、協力して取り組むことができます。 意欲をもって取り組むことができます。 運動の技能の差が大きいため、個に応じた指導の充実を図る必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動に対する興味・関心を高める工夫をします。 運動の「めあて」を提示し、身に付けさせたい運動の特性をつかませます。 作戦を立てるなど、チームで協力する時間を設けます。 場を工夫し、個人のめあてに沿った練習ができる指導の工夫をしていきます。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために協力して作戦を立てたり、話し合いをしたりすることができます。 柔軟性・動きを持続する力が身に付いていない児童が多いです。 自分がどのような動きをしているかをイメージする力が弱い児童がいます。 自分の運動の力を見極め、課題を設定する力が身に付いていません。 	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動を定期的に授業に組み込みます。 体力を高める運動を授業に組み込みます。1年間を通して取り組ませる。 映像や具体的な例を示し、視覚で認識させます。また、反復して動きを覚えさせます。 学習カードを使い、毎回の授業の課題設定をさせます。

	具 体 的 な 改 善 策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達段階に応じた様々な動きを取り入れた体ほぐしの運動を月ごとに工夫します。 体育の学習の時間の基本的な流れを、「今まで学んだ動きの確認（基本の動き）→手本の運動を見る→その時間で学ぶめあてを把握する→全体練習→めあてに向かい一人ひとりの力に応じた練習」の形で設け、低学年のうちに取り組むべき運動の習得を目指します。 友達の動きを見て学ぶ時間を生かしながら、励まし合い、みんなで上達していく意識を育て、協力する力を高めます。 子ども達が運動に取り組むことができる機会を多く提供し、いろいろな動きを体験できるようにします。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 体育朝会で様々な運動を紹介し、「ランニングカード」「短なわカード」など児童が1年を通して運動に興味・関心を高められるような活動を増やします。 グループ活動・教え合いを授業に取り入れ、児童が意欲を持って取り組めるようにします。 学習カードを充実させ、運動のねらいを理解して授業に取り組むことができるようにします。 グループ活動・教え合いを通し、友達と仲良く協力して活動しようという態度を育てます。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動を計画的に授業に取り入れ、自らの体力を知り、体力を向上させます。 <ol style="list-style-type: none"> 体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動。 力強い動き及び動きを持続する能力を高める運動を授業に組み込みます。 学習カードを活用し、自分の力を知り、自分の課題を設定し、解決するための力を養います。 <ol style="list-style-type: none"> 授業の振り返りを毎回の授業で行うことで、個人の状態や次の課題を把握させます。 課題を解決するために、場を自分で選んだり工夫することを決めたりする思考力を養います。 朝の時間や休み時間に、向上心を持ち、子ども自身が工夫して取り組んでいけるような運動の場を設置し、日常的に運動に親しみ、楽しみながら体力向上に励む子どもを育てます。 	

昨年度改善プラン成果と課題

- 低学年：音楽活動に興味・感心が高い児童が多く、歌唱やリズム打ちに意欲的に取り組む姿勢が見られました。
- 中学年：音楽活動に積極的に取り組む児童が多く、歌唱・器楽に対する意欲の向上が見られました。課題は、音符や楽譜にもっと親しみ、音楽づくりの活動に生かすことです。
- 高学年：合唱や器楽合奏等に積極的に取り組み、様々な学校行事で堂々と演奏を披露することができました。課題は、より豊かな演奏表現をめざして、楽譜を効果的に活用することです。

	児 童 の 様 子	改 善 の ポ イ ン ト
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 歌や楽器に興味をもち、意欲的に音楽活動に取り組もうとする児童が多く見られます。 拍の流れにのって歌ったり演奏したりする活動を通して、友達と合わせる力や、互いの歌声・楽器の音色を聴こうとする力が育っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習形態（ペアやグループ等）を工夫し、児童が楽しく授業に取り組めるようにします。 自然でかみのない声と正しい音程で歌えるよう繰り返し指導し、鍵盤ハーモニカの正しい運指やタンギングをしっかりと身に付けるよう一人一人の個別指導にあたります。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対する意欲がとても高く、豊かな声量で元気に歌うことができます。リコーダー演奏にも進んで取り組んでいます。 豊かな声量で、柔らかな頭声の響きで歌うことができます。楽曲に合った表現の工夫について、学習しています。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで演奏を発表し、聴き合う機会を増やします。 楽器に親しむ中で、楽器の音色や音符の長さについて体験的に学ぶことができるよう指導します。 低い音域も、自然で無理のない、響きのある声で歌えるよう発声指導します。 小さなつまずきを見逃さず、必要があれば、休み時間等に個別指導を行います。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動に前向きに取り組む児童が多いです。器楽合奏には特に興味・関心が高く、熱心に取り組んでいます。 歌唱や器楽の技能に個人差がありますが、友達同士、教え合う姿、努力する姿が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 和音の構成音を重ねて歌ったり、ハーモニーのよさを感じながら演奏したりできるよう、指導します。 歌唱や器楽におけるつまずきを把握し、発達段階や個に応じた指導を行います。 主体的に演奏に取り組み、高めあうことができるよう、読譜力を養います。

	具 体 的 な 改 善 策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす活動を取り入れ、リズムや拍感を身に付け、楽しみながら歌ったり演奏したりできるように指導します。 授業の中で様々な学習形態（ペア・グループ活動等）を設定します。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> リコーダーでは、児童が進んで取り組むことができるよう、平易な作品を多く扱います。運指や音色について、細かく机間指導します。 グループで繰り返し練習を行い、演奏を互いに聴き合う機会を増やします。 ドラムサークルの活動を通して楽器に親しみ、色々なリズムを即興的につくったり聴いたり、重ねたり工夫したりできるようにし、音楽性と主体性を育みます。 既習の音符や音楽記号を用いて、簡単な楽譜を書く活動を取り入れます。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱では、腹式呼吸を用いながら発声指導を行っていきます。高学年になると、児童によっては、高音が出しにくくなるので、頭声発声の他に胸声発声も取り入れる、オクターヴ下を歌う等、発達段階や個に応じた無理のない指導を行います。 日々の学習の中で、わらべ歌や外国の民謡を題材に、ハーモニーや強弱の変化をつけることの面白さを味わわせることができるよう、指導します。 器楽合奏において、色々な楽器の特徴や演奏方法を学び、友達と音やリズム、強弱の変化を合わせる学習をします。 合唱や器楽合奏への取り組みを通して、読譜力や表現力を育み、主体的に音楽活動に関わる素地を養います。 	




昨年度改善プラン成果と課題

低学年：日常的にはさみ、のりなどの基本的な用具の使い方を指導して、作品が鑑賞できる時間や環境を用意したことで、造形活動への意欲・関心を高め、楽しみながら活動することができました。意欲を維持しながら引き続き指導していきます。

中学年：材料、用具を選択できるように指導を工夫したり、作品を見たり、話し合ったりして多様な発想や表現、自他の良さに気づける活動をしたことで、自由に選択して材料を工夫することや、作品のよさや面白さを見付けることができました。発想が思い浮かばず、つまずいてしまう児童もいるので、導入時に工夫が必要です。

高学年：個々の児童が特性を生かした活動ができるように、学習活動や表現方法などに幅をもたせたことで、自分らしい表現を見つけ、つくる喜びを感じ取ることができました。カッターや電動系のこぎりの扱いに不安がある児童がいるので、引き続き指導していきます。

	児童の様子	改善のポイント
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲をもって楽しみながら活動しています。 ・題材に応じて、想像力豊かに造形表現することができます。 ・自分や友達の作品から面白さやよさを楽しんでいます。 ・まだ基本的な用具の扱いに慣れていない児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や季節に合わせた題材を設定し、児童の意欲をさらにもたせます。 ・児童がイメージをふくらませやすいように、多様な資料や材料を用意します。 ・図工の授業以外でも、日常的にはさみ、のりなどの基本的な用具の使い方を指導していきます。
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲が高く、つくることや表すことを楽しんでいます。 ・友達の作品に関心をもって、自他の違いや発想の良さや面白さに気づきながら、鑑賞しています。 ・発想が思い浮かばず、意欲を損ねてしまう児童がいます。 ・自ら手順を考えて、次に進めない児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形への意欲を高められるように学習の導入を工夫します。 ・ワークシートを用いながら、作品を見たり、話し合ったりして多様な発想や表現、自他の良さに気づけ、言葉で表現できる活動を行います。 ・児童が発想を思い浮かべやすいように、参考作品や写真等を例示しながら、発想を促します。 ・手順を板書し、説明した上で、活動に取り組みさせます。
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動に関心をもち、作品が完成するまで根気よく取り組むことができます。 ・客観的に自分の作品を見つめたり、作品の良さや違いを感じ取ったりしています。 ・自分が思う完成イメージと変わってしまうことがあり、そこからやり直して完成させるまでに時間がかかってしまう児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の児童が特性を生かした活動ができるようにするために、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにします。 ・ワークシート等を用いながら、鑑賞活動を行い、自分の考えをもたせるようにします。 ・アイデアスケッチを細かく描くことで、完成イメージを可視化させます。

	具体的な改善策	
1・2年	<ul style="list-style-type: none"> ・紙、粘土、はさみ、のりなど基本の材料や用具を、年間で通じて楽しく、正しく、安全に使用できるように計画を作成します。 ・見たり触ったりして感じたことをもとに発想を広げられるような造形遊びの活動を設定します。 ・活動の参考になるような写真や資料などを豊富に用意し、意欲を高めます。 ・友達の作品のよいところを見つけ、伝え合う活動を通して、自分の作品のよさや面白さに気付く鑑賞の時間を設定します。 ・活動を段階的にもうけることで、児童が無理なく活動できるようにします。 	
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて、年間計画を立て、導入では、児童が楽しいと感じたり、面白いと思ったりするような工夫をして、造形活動に意欲がもてるようにします。 ・ワークシートを用いて、友達の作品から、よさや面白さを視点をもって、鑑賞できるようにし、自分の言葉で伝えたり、発表したりできるようにします。 ・発想がもてるように、前年度の児童の作品や教師の作品を例示しながら、自分の興味があることから発想を促し、活動への意欲を損ねないようにします。 ・手順を細かく黒板に書き、説明することで、児童が見通しをもってできるようにしたり、過程が多い場合には、詳細を印刷して渡したりするなど、自ら進んで活動できるようにします。 	
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで経験した材料や用具を再度扱うことで、材料の工夫や用具の取り扱い方に慣れ、つくりたいことに合わせて、取捨選択できるようにします。 ・見る視点を書いたワークシートを記入させ、自他の違いや工夫を見つけ、尊重することで、鑑賞の能力を育みます。 ・立体、工作に表す活動、版画等では、アイデアスケッチを描き、手順を確認できるワークシートを使います。児童が失敗することのないように、事前に教師がその題材のつまずきそうなところを確認し、ポイントとして示すことで、児童が安心して活動できるようにします。また、活動時間を十分にとり、児童が焦らず造形活動に臨めるようにします。 	

家庭

昨年度改善プラン成果と課題

児童が家庭科で学んだことを、自分の「仕事」として家庭の中で生かして、継続して実践できるようになってきました。家族の中の自分の存在や役割について意識を高め、自ら役立とうと行動する児童が増えました。家庭の協力を得ながら、児童一人ひとりが家庭実践を繰り返した成果があらわれてきました。

調理や裁縫学習では細かな作業や応用的な技能の習得状況に課題があります。



	児童の様子	改善のポイント
5年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の仕事に興味を持ち、意欲的に学習や実習に取り組む児童が多いです。 家庭での調理経験がある児童は比較的多いですが、裁縫（特にミシン）の経験がある児童は少なく、家庭科で初めて針を持つという児童が半数以上います。 家庭にIH調理機が広く普及してきており、ガスコンロを使えない児童が増加傾向にあります。 話し合い活動の際、自分の考えをすすんで発表できる児童が増えつつあります。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し練習させることで技能を着実に身につけさせ、全員が自信をもって実習に取り組めるようにします。 用具の正しい名前と安全な使い方を繰り返し指導します。必要に応じて動画や画像を用いて、児童の理解を促します。実物投影機も活用し、実習の手順や手元の動きが全員に見えるようにします。 全員にガスコンロの正しい使い方を確実に身に付けさせ、換気等を含めた火気を取り扱う際の注意点も指導します。 相手意識をもった言語活動を充実させていきます。また、これまでの経験や情報で予想できることはないかを考えさせていきます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 計画を大切にし、自分なりの工夫を加えて実習に臨む児童が増えてきました。ペア調理や一人調理にも、自信をもって取り組んでいます。 自分の考えを発言する際、これまでの学習や家庭での経験を踏まえて説明できる児童が増えました。 家庭科で学んだことを生かして、毎日や週1回など、定期的な自分の「仕事」として取り組む児童が増えました。 野菜の皮むきを苦手とする児童が多いです。また、材料を切るときに、均一な大きさに切ることに課題がある児童が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、見通しをもって計画的に取り組むことを重視して指導します。様々なグループ編成による活動を行います。 児童の学習や生活経験を大切に、様々な学びを結び付けながら、要点や理由を明確にして説明する表現力を育てます。 今後も家庭と連携しながら、児童の家族の一員としての役割意識を高め、仕事として家事に取り組む力を育てます。 調理実習では、特に包丁の扱いについて指導を充実させ、実生活に活用できる技能を身に付けさせます。

	具体的な改善策
5年	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習は「はじめてみようクッキング」と題し、安全で衛生的な調理の仕方を指導します。実習前の調理計画の立て方を段階的に指導し、食材や調理法に合った手順や用具を考えられるようにします。 裁縫実習は「はじめてみようクッキング」と題し、製作過程が段階的に理解できる教材・教具を取り入れます。また、家庭で長く活用できる作品を製作し、児童が作品に愛着をもって、完成に向けて意欲と技術を高めようとする学習にします。 消費・環境の学習「目指せ！買物マスター」や、持ち物の片付けの学習「目指せ！整理整頓マスター」を通して、児童が環境や物や金銭について見つめ直す学習をします。特に、自分の持ち物への所有感や愛着、家族への感謝の気持ちを高めます。 一度学習した調理や裁縫の技能を、違う単元や題材などで繰り返し学べるよう、2学年間を見通した学習支援をします。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 6年生になり初めての学習は、「わたしの生活時間」です。まず、それぞれの生活時間を発表し合うことで、見直しをします。次に家族とのふれ合いを増やすくふうの一つとして、朝食づくりへの実践へと進めていきます。 裁縫実習では、「生活に役立つエプロン作り」で立体縫製の基礎を学ばせます。丈夫で美しい縫い方ができている作品や、使いやすい工夫がされた作品を、完成させます。 調理実習は「キッチン大森第一へようこそ」と題し、1食分の献立の調理や買物の計画から実習まで取り組ませます。技術の定着と創意工夫する力の向上を目指します。 中学校との内容のつながりを意識します。継続して学習するもの（例えば、調理用具の扱い方やミシンの扱い方）は、小学校段階で確実に習得するものを明示し、意図的に練習ができる教材を選定します。



「ESD」の視点に立った教育活動と「SDGs」への貢献

平成30・31年度 大田区教育委員会研究推進校

あしたへつなぐ、わたしたちにできること・・・

サブテーマ「持続可能な社会の実現に向けて 子ども達の“自分ごと化”をすすめ
深い学びを育む大森第一小のSDGs」



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



大田区立大森第一小学校



○カリキュラムデザイン～全学年で教科を横断したESDカレンダーを作成～

教科	1学期	2学期	3学期
図画工作	しあわせシーサー	トロトロカチカチワールド ～農耕を役立て～	
理科	あたたかくなって 月や星の動き	すずしくなると	暑さの中でも
社会	社会科見学会 「あしたのまち」 社会科見学会 「あしたのまち」	わたしたちの社会科見学会 「あしたのまち」	社会科見学会 「あしたのまち」
国語	よりのびしよ 新聞を作ろう		わたしの研究レポート
総合的な学習の時間	地球とつながろう ～幸せを守る 安心未来マップ～	地球とつながろう ～大森変わらねえ～	世界とつながろう ～大田区・羽田～
行事	こどもまつり	ESD集会	学級会
特別活動		ESD集会	学級会
音楽		日本の音楽に親しもう	合唱「どんなときも」
特別活動	感謝 「消防隊のおじいさん」	自然愛護 「ふれあいの森で」	国際理解 「世界の小学生」

教科	1学期	2学期	3学期
算数	30までのかず		
図画工作		グループ作り	どんぐり ならべて
理科	あそびのたね プレゼント	生物科見学会 (秋みつけ)	わかしあそび になろう
社会	おおきなまち わたしのはな	みんなであそぼう。はる、なつ、あき、ふゆ	わかしのあそびをたのしもう
国語	なかとし、いっしょにいそいそ	いそいそとかなし	もうすぐみんな2年生
総合的な学習の時間	交流① (あそびあそび)	交流② (あそびあそび)	交流③ (あそびあそび)
行事	1年生を送る会	運動会	5年生を送る会
特別活動	わけをはなそう	しらべたいな みせたいな	
音楽			
特別活動	2(2) 自然愛護 「ぼくのあそび」	3(1) 自然・思いやり 「はなはなちゃんがおちた」	4(2) 自然・思いやり 「ぼくのはなさいたけど」

教科	1学期	2学期	3学期
算数	時刻と時間の求め方	長さのたいはかり方	見やすく整理して 表そう
理科	自然の観察	昆虫を育てよう 植物を育てよう	ゴムのはたらき 星のはたらき
社会	わたしたちの大田区	わたしたちのくらしと商店	くらしと工場
国語	よい慣習になろう	本はともだち 図書館・図書室を役立てよう	本を借りて読む楽しさ
総合的な学習の時間	身近な問題は、何かな (活動の目的を明確にする) 課題設定	海苔のつながりを見付けよう。 (ゴールの方向目標を共有する) 課題設定	地域とつながろう ～大森第一小学校と大森町～ (発信活動) まとも・表現・振り返り
特別活動	大森海苔のふるさと観見学 (学芸員との交流) 大森町と海苔を調べる	元海苔漁師 海苔見学会と交流	他校との交流 (中倉・大森東・大森第一小) 海苔作り体験
音楽	郷土愛 「ぼくのおべんとう」	個性の神楽 「じゃがもちの歌」	郷土愛 「ふるさとといとこがし」
特別活動		相互理解 「たまちゃん、大好き」	感謝 「大森町のすけなみん」

教科	1学期	2学期	3学期
算数		単位量あたりの大きさ	百分率とグラフ
社会	わたしたちの 国土	わたしたちの生活と 工業生産	情報化された社会と わたしたちの生活
理科	種子の発芽と成長	鳥のたんじょう	人のたんじょう
総合的な学習の時間	大森第一海苔見学会 (つかひ・調べる)	ESD集会	ESD集会
行事	春の遠足	伊豆高原で学ぼう (調べる・体験する・発信)	大森第一環境サミット (発信・行動する)
特別活動	こどもまつり	学級会	学級会
国語	新聞を読もう	次への一歩 活動報告書	わたしの 研究レポート
音楽		MIDORI	自然の歌をつくろう
図画工作	自由と責任 「顔のつくり」	自然愛護 「ふれあいの森」	自然愛護 「イルカの島を守ろう」
特別活動		自然愛護 「ふれあいの森」	自然愛護 「イルカの島を守ろう」

教科	1学期	2学期	3学期
算数		比と比の値	比例と反比例
理科	ものの燃え方と空気	生物のくらしと環境	大地のつくりと変化
社会	わたしたちの生活と政治	わたしたちの生活と政治	わたしたちの生活と政治
国語	ようこそ、わたしたちの町へ①	学級討論会 をしよう	ようこそ、わたしたちの町へ②
総合的な学習の時間	SDG#とつながる 大森の町(つかひ)	未来に預そう、 私たちの町①(調べる)	未来に預そう、 私たちの町②(発信・行動する)
行事	こどもまつり	ユニセフ集会	学級会
特別活動		伝統引き継ぎ式	学級会
図画工作			未来に預そう、 私たちの町(造形作品)
特別活動	郷土愛 「白神山」	自然愛護 「愛蔵さんからの メッセージ」	国際理解 「白旗の少女」
特別活動		感謝 「土石流の中で 救われた命」	自然愛護 「タマノ川」

OEESD 集会の実施

子ども達が自分たちで調べた学習内容や、活動を全校に向けて報告・発信する場を ESD 集会として設定しています。学年の発達段階や、学習内容によって ESD 集会の形態は様々ですが、本校の特色ある教育活動として、今後も全学年で取り組んでいきます。

今年度最初の ESD 集会は5年生が「大森第一海ゴミ調査隊」と題して、世界規模の海洋汚染問題「海ごみ・マイクロプラスチック」について発表しました。学習して終わりにするのではなく、子ども達が自ら考え、行動を変革することが ESD の最も重要なことであると考えています。



平成30年度の継続内容

(1) 学習ポートフォリオ

児童一人一人のボックスファイル（各教室に設置）
授業で活用したワークシートや学習カードなど、学びのプロセスをストックし、その成果を積み重ねていくとともに、学習の振り返りで活用していきます。

(2) まなびの掲示板<本校で開発>

月1回、自分自身の成長やできるようになったこと、学習の成果を児童が記入し、掲示していきます。階段踊り場など、各学年の掲示板に設置してあります。

(3) 自己肯定感測定カルテ<本校で開発>

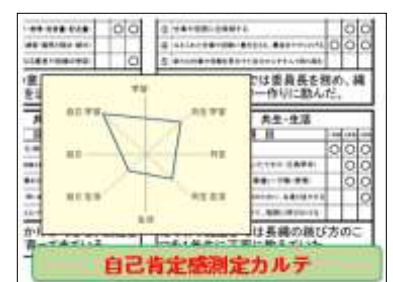
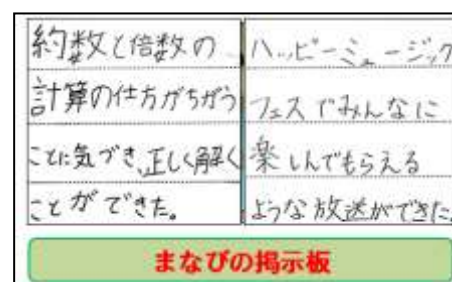
児童一人一人の自己肯定感の高まりを見取るためのカルテです。（教師用）
教師が授業の中で適宜活用していきます。

(4) がんばる友達発見カード<本校で開発>

学期末にクラスの友達（10名程度）のよいところ・頑張っていたことなどを児童がワークシートに記入していきます。互いに認め合う習慣を身に付けます。

(5) 研究だより（保護者・地域向け）の定期発行

本校の研究の取り組みについて発信していきます。
各学年の研究授業を中心に、年6回程度の発行を予定しています。



<成果>

- 発達段階に応じて、「わたしたちにできること」や「次に何ができるか」を考える習慣が身に付いてきた。
- 「自己肯定感の向上」を目指した昨年度までの研究成果を生かし、「たてわり班活動」や「兄弟学年交流」を通して「共生」の意識がさらに高まってきた。

<課題>

- 教職員の共通理解をさらに図ること。研修の機会充実。重点項目が多岐にわたっており、本校として大切にしたい「ESD」・「SDGs」の視点を明確にする。
- 保護者や地域からの協力を得ること。学校側から「ESD」「SDGs」について働きかけ、学校・家庭・地域が連携して協力し合っていく。

特別活動の取り組みから

(1) たてわり班活動（異学年交流）を通して

上級生は、下級生に対して優しく接したり、一緒に行う遊びを計画したりする中で、上級生としての自覚や、学校をよりよくしようという意識が芽生えます。自分たちの計画で下級生たちが楽しそうにしたり、下級生から感謝の気持ちを伝えられたりすることで、さらにその意を強め、自己肯定感を高めています。下級生は、そのような上級生たちの姿に憧れをもち「いつかは、先輩たちのように学校を引っ張っていきたい」と、意欲を高めています。また、自分たちにできることを一生懸命考え、取り組むようになり、経験も自己肯定感を高めることにつながっていくと考えています。

① なかよしタイム（中休み）

中休みにたてわり班で集合してとも遊びをしています。定期的なたてわり班が集合して関わるようになり、より早くお互いの顔を覚え、普段から上級生や下級生を意識するように取り組んでいます。



② 昼のたてわり班活動（学期に1回）

たてわり班で、「ふれあい活動（上級生による本の読み聞かせや、折り紙教室など）」「ふれあい給食（ランチルームに集合し、たてわり班で給食をいただく）」「ふれあい清掃（たてわり班で校内の清掃）」の三つに分かれて活動しています。なかよしタイムよりも、上級生が事前に準備・計画をすることが多く、活動後は満足そうな様子が見られました。



(2) 委員会活動を通して

代表委員会による朝のあいさつ運動やユニセフ募金など、各委員会が学校生活をより豊かに楽しいものにするよう、話し合いに取り組んでいます。お知らせ集会では、日ごろの活動などを全校に紹介しました。



(3) クラブ活動を通して

自分たちの好きなことを、同じことが好きな友達同士で集まり、行うことで、その活動に対する自信をもつことができます。

(4) 学級活動を通して

学級の友達と話し合ったり、話し合っただけの決めたことを実践したりすることを通して、自治的・主体的な態度を育てています。

(5) こどもまつりを通して

4月から学んだことを振り返りながら、学年でテーマを決め、各学級の学級会で出店の内容を相談して決めました。各学級が工夫を凝らしたお店を出店しました。この活動の中で、協力しながらお店の準備をしたり、店番をしたりすることで、学級や学年の人間関係をより豊かにすることや、異学年と交流しながらお互いの努力を認め合うことができました。また、学校生活をより楽しく豊かなものにしようという態度も育むことができました。

